

【資料5：重点指導内容に基づいた具体的指導内容】

| 要素   | 5年生における重点指導内容                | 本時における関連する具体的指導内容                      | 初出学年           |
|------|------------------------------|----------------------------------------|----------------|
| 文章構成 | 段落相互の関係をつかみ、構成図を作ることができる。    | 文章構成の確認<br>「問い」→「答え」                   | 3年<br>3年       |
| 内容把握 | 全体を見通した要旨をとらえることができる。        | 時間的順序を表す言葉<br>キーワード、キーセンテンス<br>要点をまとめる | 2年<br>3年<br>3年 |
| 接続語  | 接続語に着目して、段落相互の関係を読み取ることができる。 | 並列や付加を表す接続語<br>「また」の役割                 | 4年             |
| 指示語  | 「こそあど」の内容を指摘し、活用することができる。    | 前段落や前文までを指示し、まとめる言葉<br>「こうして」「このように」   | 3年             |
| 音読   | 目的に応じた読み方ができる。               | 既習漢字<br>区切り目や大事な言葉をはっきり                | 1年             |

イ 段階的指導方法

指導方法は、学年段階や学級集団、個の実態に応じて自ずと変わってくる。アの段階的指導内容の定着を図るために、実態に応じての指導を易から難へと段階的に行えるように整理したのが、段階的指導方法である。つまり、遅れのある子どもには、教師の手立てを多く講じる指導方法を用い、進んでいる子どもには、できる限り多く自力で学習が進められるような指導方法を用いる。そして、遅れている子どもも段階的に学び方を身に付けていき、それに応じて教師も指導方法の段階を引き上げていくようにしようというものである。段階的指導内容と同様に、実態と合わせ整理することで、全教師の一貫した指導が可能になる。

●具体的実践例1● 説明的文章の学習を支える基本的な能力の段階的指導方法

本校では、実態調査に基づき、学習前から、読みを支える基本的な能力である音読力・漢字力・語句力の段階的指導を行った。その例が下記の実践である。特に、低学年や遅れのある学級・子どもに対して、このような指導を行った。

① 音読力を身に付けさせるための段階的指導方法 (主に低学年)

|     |                                                              |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 段階Ⅰ | 教師の範読1【大まかな内容を理解する】<br>教科書を持ち、目で追う。                          |
| 段階Ⅱ | 教師の範読2【文字の正しい読み方を知る】<br>教科書を置き、人差し指で文字をたどる。<br>① 読点まで→② 句点まで |
| 段階Ⅲ | 一人読み1【確かめながら丁寧に文字を読む】<br>人差し指で文字をたどりながら読む。                   |
| 段階Ⅳ | 一人読み2【目で追いながらすらすらと読む】<br>起立し、正しい姿勢・大きな声で読む。                  |

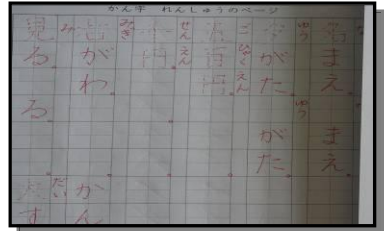
【写真1：指差し読み】



② 漢字力を身に付けさせるための段階的指導方法 (主に低学年)

|     |                                             |
|-----|---------------------------------------------|
| 段階Ⅰ | 授業における指導【新出漢字を知る】<br>1時間4文字(筆順→空書き→3回練習)    |
| 段階Ⅱ | 家庭学習1【新出漢字を視写する】<br>教師の手本(全て)に沿って書く。        |
| 段階Ⅲ | 家庭学習2【新出漢字を書く】<br>教師の手本(読み仮名と間違った漢字)に沿って書く。 |
| 段階Ⅳ | 家庭学習3【新出漢字を覚える】<br>自力で書く。                   |

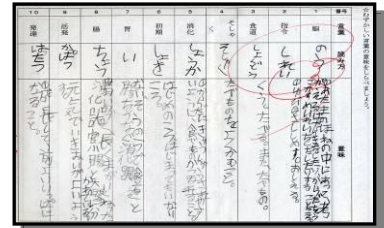
【写真2：手本に沿って書く】



③ 語句力を身に付けさせるための段階的指導方法 (全学年)

|     |                                                        |
|-----|--------------------------------------------------------|
| 段階Ⅰ | 語句の意味の理解【新出語句の意味を知る】<br>教師から知っておいてほしい語句を示し、その意味を教える。   |
| 段階Ⅱ | 意味調べ1【示された語句の意味を自分で調べる】<br>教師からワークシートに難語句を示し、自分で調べさせる。 |
| 段階Ⅲ | 意味調べ2【語句の意味を自分で調べる】<br>自分で分からないと思う語句の意味を調べる。           |
| 段階Ⅳ | 意味調べ3【語句の意味予想と確かめ】<br>文脈から語句の意味を予想させ、確かめる。             |

【写真3：語句調べ】

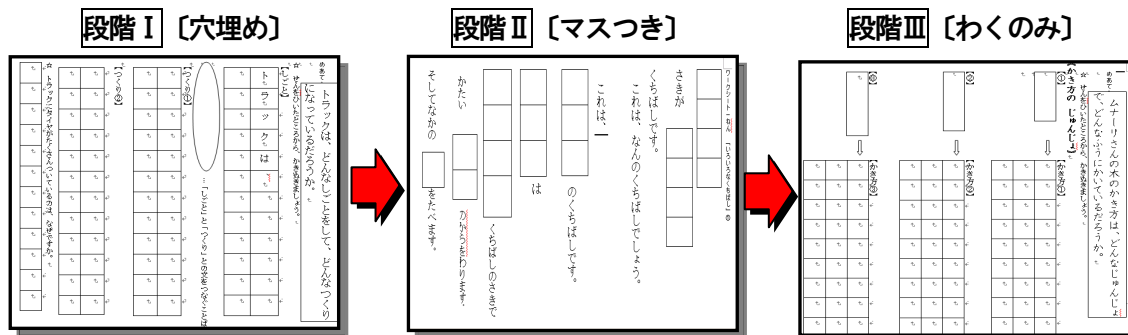


●具体的実践例2● 説明的文章の学習を支える基本的な能力の段階的指導方法

① ワークシートにおける段階的指導方法

本校の説明的文章の学習指導は、基本的にワークシートで進めている。その中で、読みの実態や、学習効果の高まりを考慮しながら、「穴うめ」→「マスつき」→「わくのみ」へと、実態に合わせたレベルでのワークシートを作成するようにした【資料6】。

【資料6：段階的な工夫をしたワークシート】



②教材文の視写における段階的指導方法

【写真4：視写ワーク】

**段階Ⅰなぞり書き【なぞり書き】**  
ワークシートで、教師の書いた文をなぞり書きする。

**段階Ⅱ視写1【空欄部分の視写】**  
ワークシートで、空欄の部分の視写する。

**段階Ⅲ視写2【文の視写】**  
(教師と一緒に) 短い文から始めて長い文を視写する。

**段階Ⅳ視写3【文章の視写】**  
原稿用紙の使い方を考えながら、表記の仕方に気をつけて視写する。



2 仮説2の検証 ガイド学習を中心にした学習指導方法の改善

(1) 指導過程の工夫・改善

指導過程は、「ずらし」を行い、直接・間接均等指導を基本としている。そして、導入は、必ず教師と共に行う。導入における指導・支援が単位時間の学習の流れを左右する最も大切な過程であると考えからである。また、「ずらし」で生じる間接指導時間を、音読の時間とし、1時間1回以上の音読を確実に出来るようにしている。また、辞書引き学習を多く取り入れるようにしている。

(2) ガイドの育成とガイド学習の工夫・改善

ア ガイドの育成

本校では、間接学習におけるガイド学習を重要視しており、ガイド育成の段階的取組を行ってきた。

(ア) ガイド学習の充実に向けて

ガイド学習の充実に向けて、【資料7】のような目標を設定した。

【資料7：ガイド学習の充実に向けて】

**第Ⅰ段階 基本的なガイド学習の定着を目指して**

- 1 学習の手順や学び方の習得
- 2 基本的な発表の仕方や聞き方の能力の向上

**第Ⅱ段階 子どもが自分たちで互いに考えを出し合い、共に高め合うガイド学習を目指して**

- 3 子どもたちだけで進められる「ふかめる」過程
- 4 子どもたちだけで進められる「つかむ」「みとおす」過程

(イ) ガイド育成の手順

本校の「ガイド学習の手引き」を用いながら、次の【資料8】のような手順でガイドを育成した。

【資料8：ガイド育成の手順】

**段階Ⅰ** 上下学年同内容で授業を行い、ガイドの方法を全員で学ぶ。

**段階Ⅱ** 教師がガイドをやってみせたり、子どもたちにもさせてみたりする。

**段階Ⅲ** 慣れている子からガイドをさせる。

**段階Ⅳ** 一週間または数日ごとにガイドを交替させる。

**段階Ⅴ** 一日ごとまたは教科ごとにガイドを交替させる。